

記載上の注意事項

1. 履歴書（様式1-1）

- ① **学歴**は、大学入学以降の学歴、インターン歴、研究生などの研究歴を記入して下さい。
職歴には、給与関係を除いて下さい。なお、履歴の空白期間には、説明（自主研修等）をつけて下さい。研究歴には、所属講座・部門等まで記入して下さい。教育歴は、職歴と別項目として、所属講座・部門等も含め記入して下さい。
- ② **免許及び資格**には、医師免許、歯科医師免許、認定医、専門医、指導医、標榜医等を記入して下さい。
- ③ **学位**には、授与された大学名も記入して下さい。また、大学院の課程修了による学位は大学名の後にAと、論文提出による学位はBと記入して下さい。
- ④ **学会活動等**は、所属の学会名、役職名等を記載して下さい。
- ⑤ **賞**には、学術活動による表彰を記入して下さい。
- ⑥ **年の表示**については、西暦で記入して下さい。（以下共通）

2. 業績目録（様式1-2）

- ① 下記の**A～G**の各項について記入して下さい。**A～G**の各項すべてにおいて、医学教育に関連するものには※の記を文頭につけてください。（目録の1枚目から順に頁を付して下さい。）
- ② 目録**A～D**には、既に刊行されたものと、受理（accept）されて公刊予定となったもの（印刷中、in press）のみを記入して下さい。

（注1）記載は、欧文・和文に分けて、それぞれ発行年順に記入して下さい。

（注2）記載方法は、記載例を参照して下さい。本人には、アンダーラインを付して下さい。

（注3）共著者名は、業績に記載してある順に全員記入して下さい。

（注4）発表論文のインパクトファクター（IF、最新の値）を記入してください。

A. 原著とは、著者の研究成果をまとめたもので、referee journalに記載された論文を指します。

（注）学位論文に相当する原著の番号を○印で囲って下さい。

B. 症例・治験・手技の項には、A、C、Dのいずれにも属さないものを記載して下さい。

C. 総説には、展望・講座・解説等が含まれます。

D. 著書には、翻訳が含まれますが、その場合は（翻訳）と記して下さい。

E. h-Index を記載して下さい。

- ③ **F. 学会発表**については、**a. 特別講演・シンポジウム**等、**b. 一般発表**（医学教育関連はすべて記載、医学教育関連以外は最近5年間の発表総数と主要なもの10題以内）をそれぞれ欧文・和文に分けて年代順に記入して下さい。なお、講演要旨或いは抄録の掲載記録は、行末に括弧を付けて記入して下さい。

- ④ **G. 研究助成金取得状況**については、文部科学省（文部省）・厚生労働省（厚生省）・その他（共同研究費、受託研究費（治験含む）、財団等の助成金等）に分け、また、代表研究者か分担研究者かを明記して下さい。なお、研究報告書は、括弧内に記入して下さい。

3. 教育実績（様式1-3）

様式1-3に記載してある内容を記載して下さい。

4. 応募理由書（様式1-4）

研究成果の概要やアピールできると思われる点、着任後の研究・教育に関する抱負等について記載して下さい。また、様式1-4に記載してある質問事項に回答をお願いします。

（注）1. 上記書類は、学内に公開されることがあります。

2. 上記書類は、原則としてA4版とし、ワード等を用いて作成して下さい。

履 歴 書

ふりがな ち ば た ろ う
 氏名・性別 千 葉 太 郎 Ⓜ 男
 生 年 月 日 1 9 5 0 年 5 月 3 1 日
 現 住 所 千 葉 市 中 央 区 亥 鼻 1 - 8 - 1
 現 職 千 葉 大 学 准 教 授 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)

学歴及び職歴

1969年 4月 1日 千 葉 大 学 医 学 部 入 学
 1975年 3月 23日 千 葉 大 学 医 学 部 卒 業
 1975年 6月 1日 医 員 (研 修 医) (千 葉 大 学 医 学 部 附 属 病 院 〇〇科) (1976年 3月 30日 まで)
 1976年 4月 1日 千 葉 大 学 大 学 院 医 学 研 究 科 博 士 課 程 (〇〇系) 入 学
 1980年 3月 25日 千 葉 大 学 大 学 院 医 学 研 究 科 博 士 課 程 (〇〇系) 修 了
 1980年 4月 1日 研 究 生 (千 葉 大 学 医 学 部 〇〇学 講 座) (1982年 3月 31日 まで)
 1982年 4月 1日 医 員 (千 葉 大 学 医 学 部 附 属 病 院 〇〇科) (1983年 3月 30日 まで)
 1983年 4月 1日 文 部 教 官 千 葉 大 学 助 手 医 学 部 附 属 病 院 (〇〇科)
 1986年 9月 1日 文 部 省 在 外 研 究 員 (ア メ リ カ 合 衆 国 ペ ン シ ル バ ニ ア 大 学 医 学 部 生 理 学 講 座)
 (1987年 6月 30日 まで)
 1987年 12月 1日 千 葉 大 学 講 師 医 学 部 附 属 病 院 (〇〇科)
 1988年 4月 1日 厚 生 技 官 (国 立 〇〇病 院 〇〇科 医 長)
 1990年 4月 1日 文 部 教 官 千 葉 大 学 講 師 医 学 部 (〇〇学 講 座)
 2001年 1月 6日 中 央 省 庁 等 の 再 編 に 伴 い, 文 部 教 官 は 文 部 科 学 教 官 と な っ た
 2001年 4月 1日 文 部 科 学 教 官 千 葉 大 学 講 師 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)
 2004年 4月 1日 国 立 大 学 法 人 法 の 規 定 に よ り 国 立 大 学 法 人 千 葉 大 学 職 員 と な っ た
 2004年 5月 1日 千 葉 大 学 助 教 授 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)
 2007年 4月 1日 千 葉 大 学 准 教 授 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)

教育歴

1990年 4月 1日 文 部 教 官 千 葉 大 学 講 師 医 学 部 (〇〇学 講 座)
 2001年 4月 1日 文 部 科 学 教 官 千 葉 大 学 講 師 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)
 2007年 4月 1日 千 葉 大 学 准 教 授 大 学 院 医 学 研 究 院 (〇〇学)

免許及び資格

医師免許 (登録番号 123456号) 19〇〇年〇月〇日
 第一種放射線取扱主任者 (登録番号 78910号) 19〇〇年〇月〇日
 日本内科学会認定医, 日本循環器学会専門医

学

位

医学博士 (千葉大学A) 1980年3月25日

学会活動等

日本薬理学会評議員, 日本生理学会員, 日本神経科学会専門委員
 International Brain Research Organization 会員
 編集委員: 蛋白質・核酸・酵素, Journal of Biological Chemistry

賞

日本細菌学会黒屋奨学賞 (〇〇〇に関する研究, 19〇〇年)
 日本電子顕微鏡学会瀬藤賞 (〇〇〇に関する研究, 19〇〇年)

業 績 目 録

A. 原著

- ※ 1. Chiba T. Medical students' expectations towards an implementation of a family medicine textbook as a comprehensive app in Japan. J Med Syst. 1980;48:128-42. IF 1.333
- 2. Kono M, Ishikawa K, Chiba T. Acetylcholine sensitivity of skeletal muscle cells differentiated in vitro from chick embryo. Brain Res. 1987;25:216-9. IF 3.676
- 3. Grant S, Kobayashi H, Chiba T. Isolation and culture of motoneurons from embryonic chicken spinal cords. Proc Natl Acad Sci USA. 1991;76:3537-41. IF 4.666
- ※ 4. Hastings KEM, Koppe RI, Marmor E, Chiba T., Aoki N. Conceptions of how a learning or teaching curriculum, workplace culture and agency of individuals shape medical student learning and supervisory practices in the clinical workplace. Adv Health Sci Educ Theory Pract. in press IF 1.433
- 5. 野田雄二, 唐沢義一, 千葉太郎, 工藤栄一 食道癌手術視野からみた気管支動脈の走行に対する解剖学的検討. 日外会誌 1990;94:456-65.
- 6. 小林秀雄, 千葉太郎, 石川洋一 右開胸食道癌根治手術時における上縦隔リンパ節の郭清可能範囲に関する研究. 日消外会誌 1997;26:2134-9.

B. 症例・治験・手技

- 1. Kawai A, Ishige T, Chiba T. Murayama W. Malignant exophthalmos associated with multiple myeloma. Inter Med. 1995;32:875-8. IF 2.345
- 2. 中野俊一, 千葉太郎, 橋本三郎 上皮小体の癌と腺腫の異時性重複と思われる 1 症例. 耳頭頸 1997;65:647-52.

C. 総説

- ※ 1. Chiba T. Medical Student Milestones in Emergency Medicine. Acad Emerg Med. 1996;3:191-5. IF 1.163
- 2. 千葉太郎 FACS を用いた細胞間接触と Ca²⁺ シグナルの検索. 実験医学 1997;11:93-8.

D. 著書

- 1. Peltz S, Chiba T. Jacobson P. mRNA turnover in Saccharomyces cerevisiae. In: Control of Messenger RNA Stability ed. Brawerman G, Belasco J, San Diego, CA: Academic Press Inc. 1995:291-327.
- 2. 千葉太郎 心肺運動負荷テスト. 運動と呼吸, 谷村真一編, 南江堂, 東京, 1996:1-10.

E. h-Index

h-Index=

F. 学会発表

a. 特別講演・シンポジウム

1. Chiba T, Kawai A, Ishige T. Fetal cells in maternal blood: frequencies measured by the polymerase chain reaction (PCR) and in situ hybridization. 8th International Congress of Human Genetics Symposium. 1996 (Am.J.Hum.Genet.Suppl.1996;49:210-1.)
2. 千葉太郎 XYZ 症候群と精神障害. 第 85 回日本解剖学会総会. 1997 (解剖誌.1998;10:379-80.)
- ※ 3. 千葉太郎 ポートフォリオに学ぶ医学実践. 第 44 回日本医学教育学会大会. 2012 (医学教育.2012;43(suppl):18-9.)

b. 一般発表 (医学教育関連はすべて記載、医学教育関連以外は最近 5 年間の発表総数と主要なもの 10 題以内) 医学教育関連以外: 最近 5 年間の発表総数 ○○

1. 土屋伸也, 千葉太郎 食道静脈瘤の外科的治療. 第 81 回日本消化器病学会. 1996 (日消会誌. 1997;54:46.)
2. 田辺英男, 大竹昌彦, 千葉太郎, 河野雅敏 食道静脈瘤外科的治療における腹水の意義と管理. 第 82 回日本消化器病学会. 2000 (日消会誌. 2000;56:345.)
- ※ 3. 千葉太郎, 野口進一 学生による主体的 PBL の試み. 第 44 回日本医学教育学会大会. 2012 (医学教育.2012;43(suppl):69.)
- ※ 4. 千葉太郎, 大竹昌彦 チュートリアル型基礎医学実習の導入. 第 45 回日本医学教育学会大会. 2013 (医学教育.2013;44(suppl):75.)

G. 研究助成金取得状況

a. 文部科学省 (文部省) 科学研究費

一般研究 (B) 「遺伝子発現, 蛋白質合成及び構造形成の機構」研究代表者, 1995-1996 年
重点領域研究 (2) 「○○○に関する基礎的研究」研究分担者 (研究代表者 △△大学 齋藤五郎),
1997-1999 年 (1997・1998・1999 年度文部省科学研究費補助金重点領域研究 (2)
研究報告書. 2000:708-11.)

※一般研究 (C) 「心臓カテーテルシミュレーターの開発」研究代表者, 2001-2003 年

b. 厚生労働省 (厚生省) 科学研究費

精神・神経疾患研究委託費「○○○に関する研究」研究分担者 (研究代表者 ××大学 小杉六郎),
1994-1996 年 (厚生省精神・神経疾患研究委託費平成元年報告書.1995:63-7. 1995 年報告書.1996:50-5.
1996 年報告書.1997:53-8.)

c. その他 (共同研究費、受託研究費 (治験含む)、財団等の助成金 等)

受託研究費 「○○○○○についての研究」研究代表者 (△△製薬)

Muscular Dystrophy Association "Neuronal control of postsynaptic muscle protein". 1997-1999.
(Annual Report.1997:105-10,1998:150-5, 1999:161-5.)

○○記念財団自然科学研究「○○○に関する研究」研究代表者 (○○記念財団自然科学研究報告書
1997:187-9.)

教 育 実 績

1. 医学専門教育（クリニカルクラークシップ、チュートリアル、講義など）（対象学年、内容、時間数など）
2. 大学院教育（コース名、内容、時間数など）
3. 教養教育、他学部教育（対象学年、内容、時間数など）
4. 卒後研修教育（内容、時間数など）
5. 生涯教育（内容、時間数など）
6. 入学試験業務（試験監督を含む）（具体的内容と時間数）
7. 国家試験・共用試験業務（具体的内容と時間数）
8. 教育関連委員会活動（具体的内容と時間数）（特に委員長など責任者であるときは明記）
9. 教育研修歴（FD などへの参加）（具体的内容と時間数）
10. 教育研修指導歴（FD のタスクフォースなど）（具体的内容と時間数）
11. 教育関連資料作成、機器開発（具体的内容）
12. サークル活動の支援および留学生関連支援業務（具体的内容）
13. 教育関連学会活動
14. 教育関連の受賞

応 募 理 由 書

研究成果の概要やアピールできると思われる点，着任後の研究・教育に関する抱負等について記載を行い、引き続き以下の質問事項にご自身の考え（一般論として）を記載してください。

1. 学生のアクティブラーニングを実施するためにどのような工夫が必要か？（800 文字程度）
2. 大学病院においてプライマリケアの経験を学生に多く積ませるためにはどのようにすれば良いか？（800 文字程度）
3. すべての教員が医学教育について関心を持つためにはどのようにすれば良いか？（800 文字程度）
4. 医学教育において institutional research 部門が実施すべき事項はどのようなものか？（800 文字程度）
5. 医学教育における継続的改良を実践するためにはどのような組織が必要か？（1200 文字程度）